

2016年度 CSIS 共同研究

No. 605

人の移動中の犯罪被害リスクの推定

報告書

2016年05月

研究代表者

科学警察研究所 犯罪行動科学部/部長/原田 豊

共同研究員

科学警察研究所犯罪行動科学部/室長/島田貴仁
科学警察研究所 犯罪行動科学部 犯罪予防研究室/主任研究官/齊藤 知範
筑波大学システム情報系/准教授/雨宮 護
科学警察研究所 犯罪行動科学部 犯罪予防研究室//山根 由子

CSIS教員

木實 新一

平成 29 年 5 月 30 日

CSIS 共同研究報告書

No. 605 : 人の移動中の犯罪被害リスクの推定

研究代表者：原田 豊（科学警察研究所 犯罪行動科学部 犯罪予防研究室）

事務担当者：原田 豊（科学警察研究所 犯罪行動科学部 犯罪予防研究室）

受入 CSIS 教員：木實 新一

研究内容：

公共空間を移動中の人を対象とするひったくりやわいせつ行為などの犯罪は、一般的な夜間人口や昼間人口などを分母とした「発生率」の計算ができないため、被害のリスクを推定することがこれまできわめて困難であった。本研究では、CSIS の「人の流れ」プロジェクトのデータに代表される、人々の移動に関する時空間情報を参照することにより、さまざまな地区・時間帯における at risk の人々の数を分母とした被害リスクの推定を行う手法について検討する。本研究により、どのような場所や時間帯で、どのような犯罪の被害のリスクがどれほど大きいのかを明らかにすることができ、狙いを絞った効果的な防犯対策を科学的根拠に基づいて実施することが可能になると考えられる。

平成 28 年度報告：

平成 27 年度に実施したひったくりの被害リスクに関する分析結果の一端を、中央教育審議会 学校安全部会（平成 28 年度第 2 回：平成 28 年 7 月 25 日）で報告した。また、この分析を含む最近の地理的犯罪分析の新動向について、日本犯罪社会学会の機関誌『犯罪社会学研究』にレビュー論稿を執筆した。現在、上記の分析を拡充した追加分析を実施中であり、本年度中を目途に論文発表する計画である。

引用文献：

原田 豊 (2016) 「科学が支える子供の被害防止」に向けた科学警察研究所の取組, 文部科学省 学校安全部会 (第 8 期～) (第 2 回) 配布資料 資料 2,

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/077/siryu/_icsFiles/afielddfile/2016/11/04/1378249_2.pdf

原田 豊 (2016) 地理的犯罪分析の新動向 — 「移動中の犯罪」と「オープンデータ・オープンソース」 — , 『犯罪社会学研究』(41), 105-113.

CSIS 利用データセット：

【空間配分版】2008 年東京都市圏 人の流れデータセット